

3月13日(土)に父母懇主催の高2学年懇談会(以下、高2懇)が開催されました。例年は2月に行われていて、毎年大変好評をいただいておりますが、新型コロナの緊急事態宣言を受けて延期となっていました。感染対策を意識して会場を講堂とし、受付では検温・手指消毒・健康調査カードの提出をお願いし、一脚に一名ずつの着席とさせていただきました。

当日は約230名の父母にご参加いただき、そしてたくさんの先生方、OB・



OB父母の方にもお越しいただきました。高2の方のみにとどまらず、どの学年の方にも大変役に立つお話が満載でした。簡単ではありますが、その発表の内容をご報告いたします。

オープニングでは恒例となりましたオーケストラ部の演奏から始まり、しばし爽やかな音楽に癒される贅沢な時間を過ごしました。



続いて父母代表の加藤佳世さん(事務局長 村端恵子さんによる代読)と新教員代表の北村雅臣先生のご挨拶では、まず私学助成運動へのご協力への感謝が述べられ、高2懇を「信頼できる確かな情報をお伝えする会」と位置づけて、今後の「見通し」を得て「安心」して受験期を過ごしていただきたい、とお話しされました。

その後高2学年主任の黒川隆一郎先生からは、コロナの影響で部活、記念祭、修学旅行とできないことが多かった中、生徒の方から前を向いて行きましようと言われた時には、逞しさ・優しさを感じ、先生自身が励まされたことや、受動的ではなく、能動的に自ら勉強する力強

さを感じた一年であったことを話していただきました。そして、自分で自分のご機嫌をとることが大事。苦勞して悩んだ結果、自分で選んで決めたことは揺らがない。誰かの後ろを付いて行くのではなく、自分で踏み出していくと見えるものも大きい、との温かいメッセージをいただきました。



高3学年主任 伊東達矢先生

～「受験期をどう過ごすのか」

伊東先生からは上記のテーマで高3の一年間の流れと留意点をお話いただきました。事前に、異例づくしの一年間の足跡、大学入試制度、受験期の過ごし方、などを詳細にまとめたレジュメをご準備くださいました。また、生徒が自立して学習を進めるためのワークシートや年間行事予定とあわせて参加者に配布したうえでのお話でした。以下、伊東先生のお話の骨子をお伝えします。

「本日お伝えするのは受験生本人が承知していれば良い内容で、生徒には繰り返し説明する。情報化時代においては、噂やデマに惑わされないよう、学校として確かな情報を提供している。親・教師が『正しい情報』を共有して、生徒たちと進路を考えることが最も重要だと考えている。」

こうした前置きのうえで、大学入試制度の変更点の確認、大学入学共通テストの出願・受験・結果にいたる過程の振り返りなどのお話がありました。続いて、受験期の過ごし方について具体的なアドバイスがありました。

～家庭や学校でできること～

①安心のための目配り

- 変化に気づくように目配りし、イレギュラーなことがあっても粛々と学習を進められる心構えと環境作りが大切
- 一年という長い期間にどのように学習を進めていくかが大事
- 「週間学習計画ワークシート」を活用し、「何を・どれだけ・いつ・いつまでに」を自分で組み立て、到達点や「これは終わっていない」を常に「見える化」することが「安心」につながる
- 特に共通テスト後に「やみくも・死ぬ気」で勉強しないで済むように、4月から「余裕のある合格」を目指して計画に沿った学習を進めるとよい
- 残念な結果になっても、平常心で失敗の原因を探り、自分の穴を埋める計画を立て直すことで、捲土重来を期することができる

②自信をつける気配り

- 過去問研究は大切だが、まったく同じ問題は出ないので、どのような問題が出てても対応できる力を身につけること、それが「自信」となる
- 現役生は全員「未経験者」であり、経験のないことにチャレンジするのに一番大事なのは「自信」
- 進路選択は、実際にキャンパスを訪れ、知的雰囲気を感じる「十代の感性や直感」を大事にしてほしい。「自分に合う」と思うのか、「なんか違う」と感じるのか、それを信じて第一志望を決める拠り所にとよい
- 勉強が「できる・できない」ではなく、現役生は「行きたい」と思える第一志望のための勉強が最優先。結果として第二志望に出願になったとしても、勉強した過程は無駄にはならない



- 土壇場での受験校選択では、担任として併願プランを参考提示はするが、それはあくまでも安心剤。現役生は「第一志望を追いかけろ東海生の譲れない選択」を尊重するのが基本



③希望を与える心配り

- 周囲が受験生を腫れ物にさわらうような特別扱いをすると、本人の緊張感が増してしまうし、周りが焦ると本人はもっと焦ってしまう
- 自分はこうして欲しいという親の進路の希望を子どもに率直に投げかけてもよい
- 期待に応えようとする子もいれば、反発する子もいるかもしれないが、親が「あなたの好きなようにすれば良い、応援している」というのは一見優しそうだが、無責任になる場合も
- 自分の期待を語るのには良いが、勉強方法など細かなことに口出しをするのはNG
- 「やればできる」は「やったから」できる、道が拓けると捉えて、やるべきことに注力し、一つ一つ積み重ねてほしい

OB 母 久利ゆかりさん(名大一医)

高3の間、勉強に関しては学校にお任せしていて、自分ができることは毎日温かいご飯を作る以外、あまり多くはなかったと語る久利さんは、①精神面でのサポート ②受験の情報収集 ③母のストレス解消の3点を中心にお話くださいました。



昨年度の父母懇談年會では幹事長を務められ、大活躍されました

①精神面でのサポート

小学生の頃から医師に憧れていたご子息は、高1でオープンキャンパスに行き、志望校をいくつか絞

り、高2の学祭後から本格的に受験勉強を開始。焦ったり、模試の結果に落ち込んだりする本人の不安な気持ちに寄り添い、少しでも前向きになれるような言葉がけをし、結果については敢えて触れないようにしていたと話されました。また、一人で抱えこむタイプであったので、小さな変化を見逃さず、いつもと違う様子があれば見守り、話しやすい環境を作るように心がけたそうです。

②受験の情報収集

進路を相談された時の準備として、クラスの親睦会や、塾の保護者会、父母懇の地域懇はできる限り参加して必要な情報を収集。担任の先生は、志望校の決定、勉強の進捗状況の確認、模試の返却時の声掛けなど、その時々で適切な対応を一人一人にしてくださり、特に出願校決定の面談は丁寧で安心できたとのことでした。

また、地域懇での先輩お母様のお話は、受験期になってから聞いておいて良かったと思えることがたくさんあったと報告してくださいました。(例:どのように志望校をきめたのか? いつ二次試験の宿泊の予約をしたのか? 夏休みや直前期の過ごし方 等)

③母のストレス解消

新型コロナの影響で外出を控えていた直前期は、家族の些細な優しい一言や、中1から築いてきた地域の人とのつながりにも助けられたと語られました。高3の2月に行われた最後の地域懇では、二次試験を控えたお母様方と短い時間でも会えたことで不安も和らぎ、長い受験期の間にお母様同士がお話できる場の大切さを改めて感じられたそうです。

締めくくり、受験期の保護者は不安が多いけれども、親ができるのは見守ることだけ、あと一年で実家を離れて旅立ってしまうので、親子の時間を大切に充実した時を過ごしていただきたいとエールを送ってくださいました。

OBの二人については、学年主任を務められた北村先生からの紹介があり、彼らの在学中から現在に至る活躍と、今回の発表では対照的であった塾の有無についての案内がありました。

OB 中根史貴さん(名大一医)

● 親には勉強に対し口を出してほしくない

成績はどうだったの?志望校どうするの?と聞かれると受験生は悩んで苦しんでしまうから、温かい目で見守ってほしい。

● 口を出す代わりにお金を出してほしい

生々しい表現だが、サポートの一つだと考えてほしい。授業料、参考書代、塾代などの金銭面の不安を受験生から解放することは重要だと思う。「親は口を出さずに金を出す」をお願いしたい。



● 塾は基本的に使うべき

塾には膨大な情報がある。塾の講座を一つでも取って情報を仕入れて「見通し」を立て、勉強に活かして自分を「安心」させるというのはこの会のテーマにつながる。

塾で予習したことを学校で習い、2回勉強することで自分は定着を図っていた。

● 親には見守っていてほしい

5月の模試で成績が振るわず医学部を諦めようか悩んだ時、父親の「浪人しても良い」という言葉で安心できた。不安な受験生活を送っている間、見守る姿勢でのサポートは重要であると思う。

● 受験生へ…「死ぬ気で勉強してほしい」

医学部に限った話でいうと、全国の受験生は50万人いる中で、医学部は78校(現在は82)約7800人しか入れない狭き門。名大はその中でも上位であり、医学部浪人も多い中で現役合格するには「死ぬ気」でやらないと受からないことを自覚してほしい。

お弁当を含めた日々の食事、塾の送り迎え、そして受験生は孤独を感じているので話を聞くなど、親には一番の理解者となってほしいと思う。

OB 中村太亮さん(京大一法)

中学・高校と部活を続け、塾には行かなかった。中学では平均的な成績であったが、高校入学を機に勉強を頑張り、きっかけを掴んだことで高3時には二桁前半の成績を取れるようになっていた。受験は十人十色であるので、参考程度に聞いてほしい。

● 学校だけで受験勉強は十分

学校の教材、先生のレベルが素晴らしい。先生に質問すれば同時に補足事項を追加して与えてくださる。図書館で参考書を読んでも、結局学校の教材に行き着くこともよくあるため、学校を信頼しこれらを活用すれば成績は十分上げられると思う。

● 親はスイッチを押さない

いつエンジンがかかるのか心配されると思うが、これは心配不要。高3になるとクラスの雰囲気が変わり、空いた時間に勉強をしていないと、逆にクラスメイトに心配されるようになり、自然と勉強をするようになる。親には静かに見守ってほしい。子どもの方から求められたら相談に乗ったり、三食の用意、静かな勉強の環境を提供したりなどのサポートをお願いしたい。

● 修羅場は誰にでも必ず来る

人によって様々な場面はあると思うが、自分は二次試験の後が苦しかった。こういう時に頼りになるのはやはり親。二次試験の1日目に失敗をしてしまったが、母親と話すことで気持ちの整理がつき、2日目の試験に挑むことができた。修羅場と思う時は話を聞くなどのフォローをお願いしたい。そして親の緊張が子どもの緊張を追い越してしまうと、子どもは焦ったり緊張したり、やる気が出なくなってしまうため、繰り返しになるが見守ってほしい。

実家を離れる場合は、同じ屋根の下で暮らすのもあと一年となるので、残りの時間を楽しむくらいの余裕を持っていただければと思う。

先生は生徒を本当によく見ている、親身に進路相談に乗ってくださる。子どもが悩んでいると感じた時は、先生に相談してみたら、と声をかけると良いと思う。



会の終了後は父母から声をかけられ、気分転換の仕方・スマホの使用をどう思うか？ 学部はどうやって決めたのか？などの問いに、丁寧に答えている姿が爽やかで印象に残りました。益々のご活躍をお祈りしております。

【参加者の感想】

- ・実体験は説得力があります！とても参考になりました。息子との関わり方、受験に向けて活かしていけたらと思います。
- ・受験生や保護者、受験にあたっての先生のご姿勢など、実際にお声を拝聴出来て、本当に励みになりました。帰って息子にも伝えようと思います。きっと聞いてないふりをしながら、耳ダンボで聞いてくれると思います。
- ・どのお話も今の自分に役立つ内容でした。会を通じて受験に不安を感じているのが自分だけでは無いと分かり少し安心しました。
- ・長椅子に一人というのは安心感があって良かった。

【お詫び】

当日、会場の一部でマイク音声が聞き取りにくいところがありました。

お詫びして、次回以降ご参加の皆さまに明瞭に話をお届けできるよう努めてまいります。

編集後記

入試改革と新型コロナが重なり、大きな不安を抱えて迎えた今年の入試を詳細にお話しくださいました。知りたい情報もたくさん得られましたが、やはり口出しは NG という耳の痛いお話も。OBの生の声を信じて、一歩下がって見守る勇気を持ちたいと思います。